

平成 26 年度長崎市提案型協働事業 中間報告会・2次審査会

◆ プログラム

14 : 00～ 開会

順番	種別	事業名	開始時刻
		団体／担当課名	終了時刻
開会			
中間報告（H24・25 採択）			
1	市 民 提案型	まちなか魅力新発見事業	14 : 05
		長崎史談会 / 観光政策課	14 : 30
2次審査（H26 提案）			
2	行 政 提案型	長く元気で！応援事業	14 : 35
		ながさきダンカーズ倶楽部 / 高齢者すこやか支援課	15 : 00
3	市 民 提案型	アクティブ世代のスポーツライフ支援事業	15 : 05
		(特非)長崎ウェルネススポーツ研究センター／健康づくり課	15 : 30
閉会			

平成 26 年 10 月 25 日(土) 14 : 00～15 : 30

於：長崎市民会館 1階 大会議室

主催 長崎市企画財政部市民協働推進室

電話 095-829-1125、FAX 095-829-1125

E-mail shiminryoku@city.nagasaki.lg.jp

◆ 審査について

(1) 審査方法

書類及びプレゼンテーション審査を基に、審査項目 1～5 について評価（50 点満点）する。

(2) 採択・不採択の基準

評価点（各審査項目の平均点の合計）が 35 点（満点の 70%） 以上の事業を採択とし、35 点未満は不採択とする。

(3) 審査項目における評価点

5 点	優れている	2 点	やや劣る
4 点	やや優れている	1 点	劣る
3 点	普通		

(4) 中間報告（継続審査）の審査項目及び配点について

審査項目	採点基準	配点
① 協働のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか ・ 協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか 	15 点 (5 点×3)
② 目的・目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度の予定事業は順調に実施できたか ・ 事業の目的や目標の達成に近づいたか 	10 点 (5 点×2)
③ 市民の満足度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか 	5 点
④ 協働の相乗効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協働で実施することにより、事業効果は上がったか ・ 事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか 	10 点 (5 点×2)
⑤ 事業の継続性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度以降、事業継続の必要性があるか ・ 継続する場合、提案型協働事業として取り組む必要があるか ※次年度の計画（提出書類等）について内容は妥当か	10 点 (5 点×2)
合計		50 点

(5) 2次審査の審査項目及び配点について

審査項目	採点基準	配点
①事業の目的	・課題の把握が妥当であると認められ、その課題を解決するための事業目的が明確に設定されているか。	10点 (5点×2)
②事業の実現性	・事業内容及びスケジュールが具体的であり、事業の実現性は高いか。	15点 (5点×3)
③協働の役割分担	・提案団体と担当課双方の強み等が引き出される役割分担となっているか。また、対等な立場で協働して事業に取り組もうとする意識が見出せるか。	5点
④協働による効果	・協働で実施することにより、相乗効果や波及効果が期待できるか。	15点 (5点×3)
⑤費用の妥当性	・予算の収支、積算根拠は妥当か。	5点
合計		50点

◆ 各団体の提案事業概要

中間報告（平成24・25年度採択事業）

まちなか魅力新発見事業

長崎史談会 & 観光政策課

1 事業の目的

(1) 背景と課題

長崎市には近世以降埋もれている多様な資源がある、特に明治以降は未開拓の分野が山積している。また、長崎市は大きく変貌しており、町内には物知りと呼ばれていた老人が少なくなり、仕来りや記憶の伝承などが危ぶまれている。

これらの貴重な資料、情報の亡失や散逸を防ぐとともに埋もれている歴史的事実を早急に発掘し、記録として残し、情報源として今後の中心市街地を核としたまちの活性化と観光振興に役立てたい。

(2) 目的

まちなかの近世以降の歴史文化風俗等の事実を掘り起し、冊子として記録発行することで、地元を中心とした住民たちにまちの新たな魅力について知ってもらい、まちへの愛着を深め、活性化につなげる。

掘り起こした事実を目的に応じて活用することで、長崎市民全体へのおもてなし観光へのツールとする。さらに、これらの情報をもとにまちの魅力創造や発信を行うことで、新たな観光客の確保やリピーターの増加に寄与する。

2 事業の内容

(1) 方法

① 文献資料調査

② 聞き取り調査

⇒ 近世以降（特に、明治以降）に長崎に来た有名人の滞在記録やその地域で起きたエピソードをベースとする。

③ 調査で得たデータを記録に残す

④ 重要なものについては、冊子として発行 ⇒ A5版（120ページ程度）

(2) スケジュール

	第1四半期 (4～6月)	第2四半期 (7月～9月)	第3四半期 (10月～12月)	第4四半期 (1月～3月)
文献資料 調査	準備・調査 準備	調査実施	調査実施原稿 作成	冊子作成 (編集・印刷・ 校正等)
聞き取り 調査	準備・調整	2～3回開催	2～3回開催	

平成25年度：新大工、中島川・寺町、浜んまちの3ゾーン

平成26年度：館内・新地、東山手・南山手の2ゾーン

3 役割分担

(1) 団体

文献資料調査、聞き取り調査、データの検証・記録、写真撮影、冊子の編集・発行。

(2) 担当課

文献資料の提供、聞き取り調査等のサポート、
観光まちづくりを中心とした収集データの積極的な活用(都市型観光の素材としてのさるくコースの魅力アップ、マップやパンフレットへの記載、ガイドの資料等)

4 協働による効果

(1) 協働による相乗効果や波及効果

行政との協働により聞き取り調査などの際、市民のより一層の協力が得られる。文献資料の収集効率があがり、史談会会員の意識向上につながる。

収集したデータは逐次行政へ提供することにより、将来にわたり観光まちづくりの素材として効果的に利用できる。また、未指定文化財の調査資料などとしても活用できる。

聞き取り調査において、連合自治会との接触など団体単独ではできなかったことが可能なる。

(2) 目標としている状態

- A 5版 約100ページの冊子を1,000部作成
- それぞれのゾーンで、20名程度の住民に聞き取り調査を行う
- 市民のまちづくりへの参画
- コースの魅力アップによる観光客の増加
- 聞き取り調査によって得たデータの蓄積

5 事業実施にかかる経費

(1) 種別： 補助金

(2) 総事業費 800,000円 (うち市負担経費 640,000円)

長く元気で！応援事業

ながさきダンカーズ倶楽部 & 高齢者すこやか支援課

1 事業の目的

(1) 背景と課題

長崎市は全国より早いスピードで高齢者が増加しており、2025年には3人に1人が高齢者となる超高齢社会において、高齢者も地域を支える人材となることが求められる。そのような中、定年後のセカンドライフを、長く元気に生きがいを持って生活していくために、早い時期から準備しておく必要がある。

(2) 目的

55歳から65歳までの現役世代を対象に、セカンドライフの手引書となるガイドブックを作成し、出前セミナー、フェスタの開催を通して、定年後「医療や介護を必要としない元気で活躍する生涯現役」を増やす。

2 事業の内容

(1) 方法

- ①「ながさきダンカーズ倶楽部」事業プロジェクト・チームを結成。
- ②事業取組の前段として、企業・行政の総務課へ「定年セミナーの現状」「定年後に関心が高い項目」等についてヒアリングする。
- ③ガイドブックを作成
- ④企業、行政を対象に、ガイドブックを活用した「出前セミナー」を実施
- ⑤市民を対象にガイドブック発行&事業をPRするフェスタを開催

(2) スケジュール

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
ガイドブック 作成	ヒアリング 企画・取材	編集・校正 印刷	PR・配布 活用	PR・配布 検証
出前セミナー	企画・調整	準備・PR 調整	実施	検証
フェスタ	企画	準備・調整	PR	実施・検証

3 役割分担

(1) 団体

- ①ガイドブック：ヒアリング～企画～取材～編集～作成
- ②出前セミナー：企業、団体へのセミナー提案～開催

③フェスタ：企画～広報～会場設営～運営

(2) 担当課

- ①「長く元気で！」プロジェクトの調整機能を果たす
- ②ガイドブック作成：施策、関連施設等のデータ収集
- ③ガイドブック発行：行政、企業、団体への配布、周知、広報
- ④出前セミナー：企業、行政、団体の定年前セミナーの提案、プロモーション
- ⑤フェスタの実施：企画、広報、運営の連携

4 協働による効果

(1) 協働による相乗効果や波及効果

地域で活動している団体に関わることで、行政だけではできない多様な選択肢を含んだ身近なガイドブック作成が期待できる。

団体は定年退職者のセカンドデビューを応援する活動がテーマであり、現役世代にとっては近い存在である先輩からの目線が入り、共感性が高くなる。

行政は、これからの超高齢社会へ対応する有効なノウハウを蓄積できる。

(2) 目標としている状態

出前セミナー開催時に、受講者を対象にアンケートを実施し、受講前後の意識の変化を捉え、「定年後に備えた準備の必要性について考えるきっかけになった」70%以上を目標とする。

5 事業実施にかかる経費

(1) 種別：委託

(2) 総事業費 1,820,000円（うち市負担経費 1,820,000円）

アクティブ世代のスポーツライフ支援事業

NPO 法人長崎ウェルネススポーツ研究センター & 健康づくり課

1 事業の目的

(1) 背景と課題

平成25年の市民意識調査によるとこの一年間にスポーツを実践している市民の割合は39.2%であった。一方、平成24年の青・壮年期の運動習慣に関する調査で、今後定期的にスポーツを実践したいと希望している人の割合は平均64.7%であった。

つまり、スポーツを実践したいと思っているが、実際には出来ていない人も多いと推測される。また、セカンドライフの充実や、生活習慣病の一次予防、介護の一次予防を長期的に図るには、アクティブ世代（50～65歳）からスポーツ（運動）の習慣化が不可欠となる。

(2) 目的

50～65歳をメインの対象に、健康づくり・介護予防に取り組む市民の選択肢の一つとして、市民のニーズの高い（ウォーキング）種目をベースとして、効果や話題性のある種目としてノルディックウォークを取り入れ、スポーツ種目の選択増を促すことによって、市民のスポーツの習慣化を図る。

2 事業の内容

(1) 方法

生活習慣病予防を目的とした全身的な有酸素運動として、人気のある野外体験型スポーツやファッション性など、スマートなイメージで、興味をもってもらいやすく、習慣化につながるノルディックウォーク教室を、テーマ別に開催して、スポーツの楽しさ、継続するノウハウを市民に提供する。

1) ノルディックツーリズム教室

年間2回の教室を開催する。1教室の内容は以下の通りである。

対象：就業者（50～65歳）30名

日時：土曜日の午後、1教室5回シリーズ、2週間に1回の頻度（最終回のみ1～2カ月の期間を空けて）、1回あたり2時間

場所：毎回場所を変えて実施、①水辺の森公園、②あぐりの丘、③金比羅山、④松山市営陸上競技場、①～④の雨天時（小雨決行）は長崎大学の体育館、⑤高島（雨天時は延期）

内容：①基本技術習得、②ノルディックウォークの実際、③さらなる技術アップ、④まとめ、今後の活動について、⑤活動状況の把握（交流）

2) 身近な地域でノルディックウォーク教室

年間3回の教室を地域を変えて開催する。

長崎市内広域的にノルディックウォークを普及する。1教室の内容は以下の通りである。さらに、3地域での教室参加者を対象としたフォローアップ教室を開催する。

対象：2教室は平日参加可能者（50～65歳）30名、

1教室は週末参加可能者（50～65歳）30名

日時：2教室は平日の午前、1教室は週末午前、1教室3回シリーズ、1週間に1回の頻度、1回あたり2時間

場所：長崎東公園（多目的広場）※雨天時はコミュニティ体育館

瓊の浦公園 ※雨天時は市民会館7階体育室

松山陸上競技場 ※雨天時はビックN会議室および野球場通路

内容：①基本技術習得、②ノルディックウォークの実際（ウォーキングコース）、
③ノルディックウォークの実際（階段、坂道などの応用編）

フォローアップ教室の内容は以下の通りである。

対象：先着30名もしくは自身のポールを持参の人

日時：週末の午前、2時間

場所：高島（雨天時は延期）

内容：ノルディックウォークを楽しもう（現在の活動状況把握）

※上記の教室を開催するにあたり、関係団体等から選出された委員で専門部会を組織して企画・運営に関する意見交換や情報交換をする。

(2) スケジュール

第1 四半期 (4～6月)	第2 四半期 (7月～9月)	第3 四半期 (10月～12月)	第4 四半期 (1月～3月)
○4月専門部会 ○開催場所、日程決定 ○身近な地域教室①の参加者募集（H26年度中に地域を絞って準備を始める） ○身近な地域教室①の開催（5月3回）	○7月専門部会 ○ツーリズム教室①の参加者募集 ○ツーリズム教室①の開催（9月2階） ○身近な地域教室②③の参加募集	○10月専門部会 ○ツーリズム教室①の続き（10月2回、12月1回） ○身近な地域②の開催（10月3回） ○身近な地域教室③の開催（11月3回） ○身近な地域教室のフォローアップイベントの開催（12月1回） ○ツーリズム教室②の参加募集	○ツーリズム教室②の開催（1月2回、2月2回、3月1回） ○3月専門部会 ○事業報告書作成 ○次年度企画・検討

3 役割分担

(1) 団体

プログラムの作成および指導、専門指導者団体（ノルネス長崎）等との連絡・調整、専門部会の実施

(2) 担当課

開催場所の設定、広報（周知）参加者募集、専門部会委員選出、関係団体との連絡・調整

4 協働による効果

(1) 協働による相乗効果や波及効果

提案団体は、専門部会を通じて、地域の人材や他団体と協力して、計画をより具体的に進めることが出来る。

担当課は、本事業で得られた専門的な手法を健康づくり事業全般に応用することが出来る。

(2) 目標としている状態

教室を通して、楽しさを感じた者の割合、技術の習得もしくは向上した者の割合、ウォーキングよりも効果を感じた者の割合をそれぞれ80%以上にする。

さらに、全教室参加者から20%の習慣者を生む。

5 事業実施にかかる経費

(1) 種別：委託

(2) 総事業費 1,000,000円（うち市負担経費 1,000,000円）

本日はご参加いただきありがとうございました m(_ _)m
協働事業をお考えの場合は、いつでも市民協働推進室へご相談ください。

